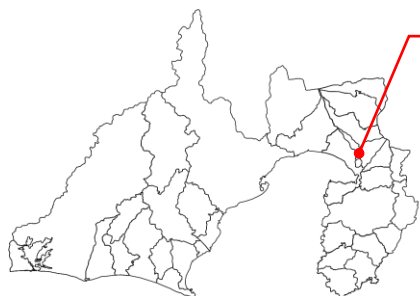


事業概要

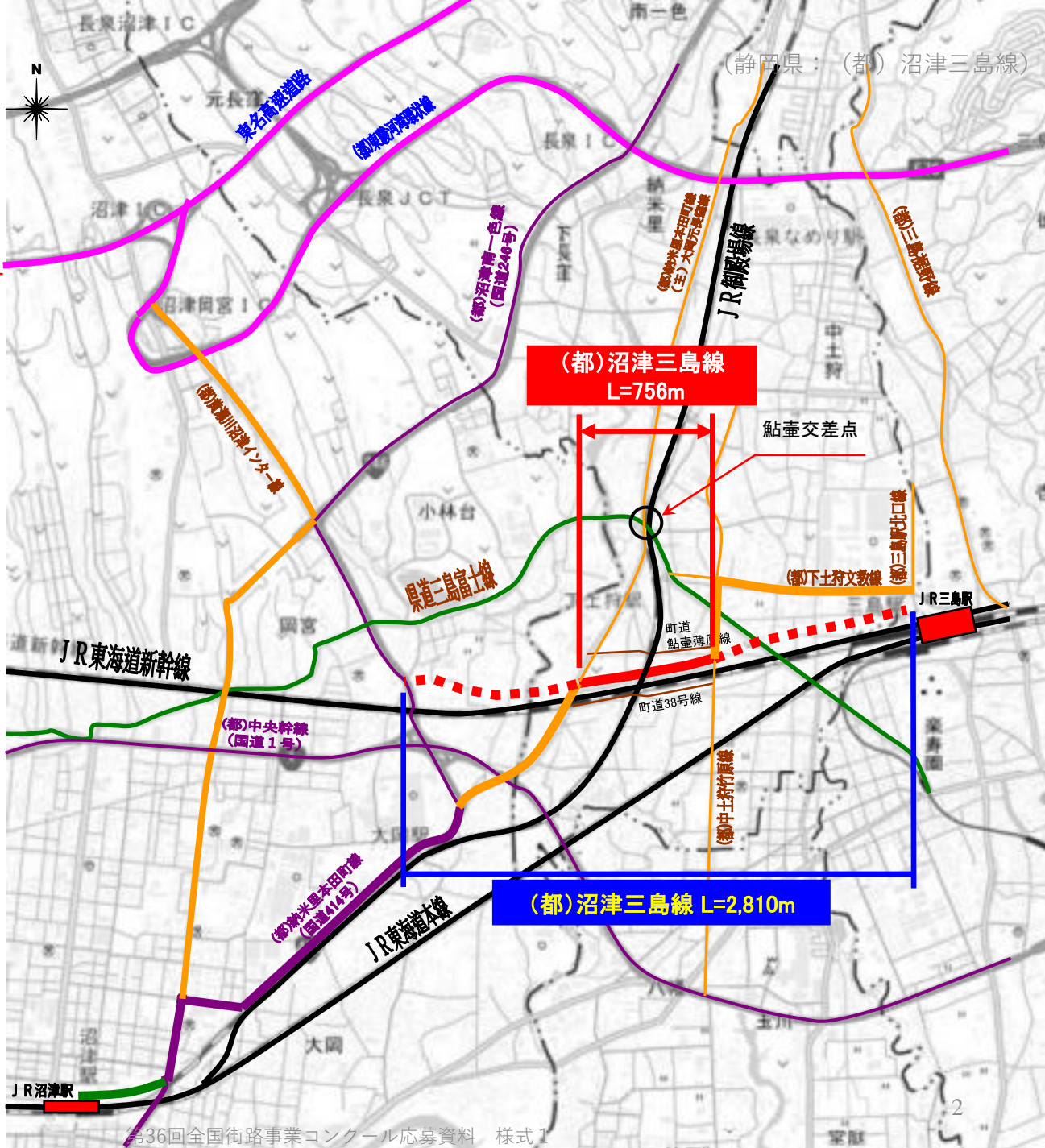
応募No.	12		
事業主体	静岡県	事業箇所	静岡県駿東郡長泉町下土狩地内
応募者名	静岡県沼津土木事務所都市計画課		
ふりがな 事業名称	ひがしするが わんこう いき と し けいかく どう ろ じぎょう <small>ひがしするが わんこう いき と し けいかく どう ろ じぎょう</small> <small>ぬま づ み しません</small> 東駿河湾広域都市計画道路事業 3・3・10号 沼津三島線(静岡県施行)		
事業概要 (400字以内)	<p>本路線は、沼津市街地北部とJR三島駅北口を結ぶ延長2,810mの都市計画道路であり、新幹線三島駅へのアクセス向上を図る当地域の東西幹線道路である。</p> <p>本路線の位置する長泉町は首都通勤圏という立地条件や子育て支援推進施策により市街化が進んでいるものの、市街地が鉄道(JR御殿場線)により東西に分断されており、東西交通が踏切部に集中し、慢性的な渋滞が発生している状況であった。</p> <p>本事業により、JR御殿場線をアンダーパスする新たな東西幹線道路が整備され、都市内交通の円滑化と安全性の向上が図られ、快適な都市生活に寄与することが期待される。</p>		
事業規模	事業延長(km)	L=0.756km	
	幅員(m)	W=25.0m(4車線)	
	事業期間(和暦)	平成8年度～令和3年度	
	事業費(億円)	約97億円	
受賞歴	有・無		
URL	-		

事業位置図

静岡県



事業箇所



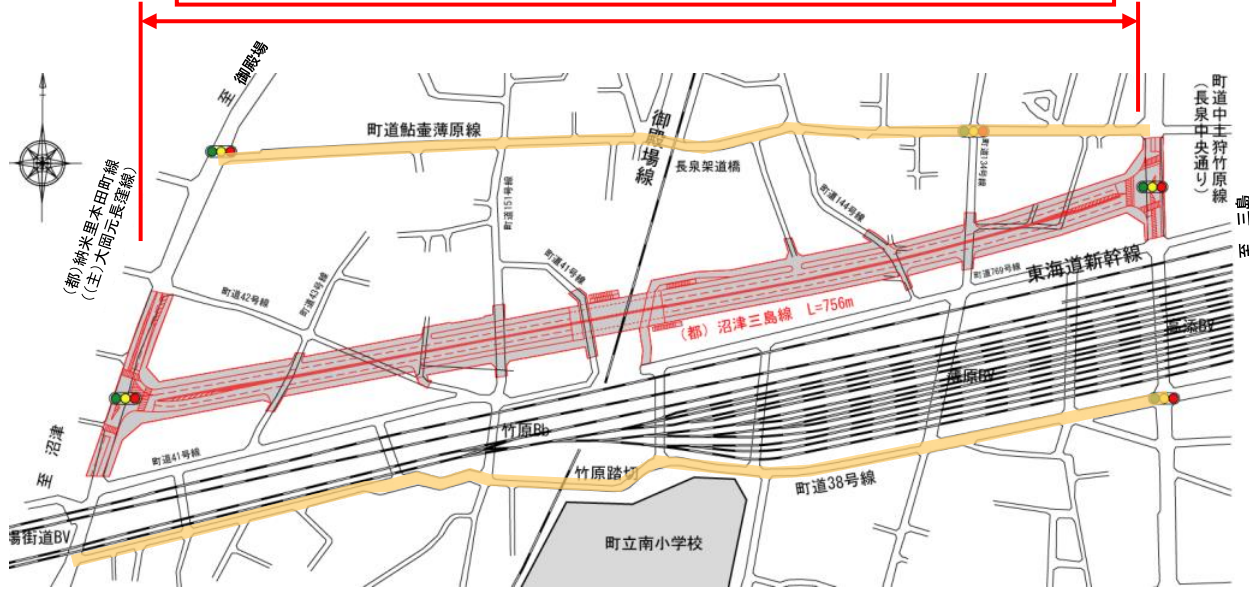
平面図

計画平面図・標準横断図

【事業概要】

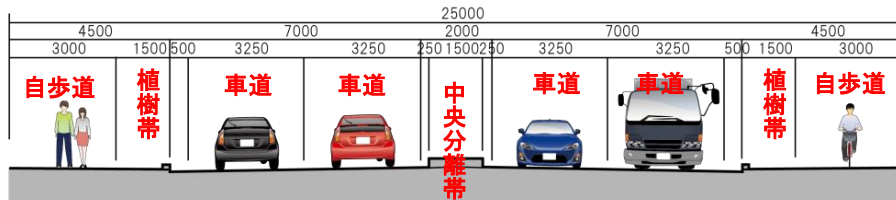
- 計画延長 : 756m
- 道路幅員 : 25.0m
- 計画期間 : 平成8年度
~ 令和3年度
- 全体事業費 : 約97億円

(都) 沼津三島線
 延長 : 756m 幅員 : 25.0m 車線数 : 4車線

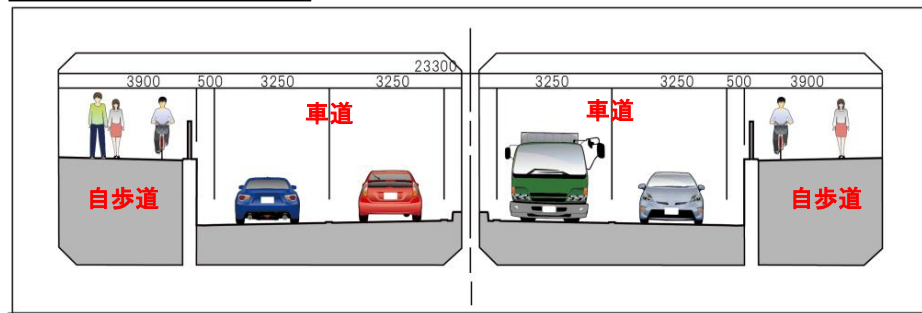


横断図

一般部



JR御殿場線交差部



事業前写真



鉄道との立体交差部

平成7年11月撮影

事業後写真



鉄道との立体交差部

令和3年11月撮影



事業前写真



平成21年2月撮影



平成22年5月撮影

事業後写真



令和5年4月撮影



令和5年4月撮影



事業効果アピール資料

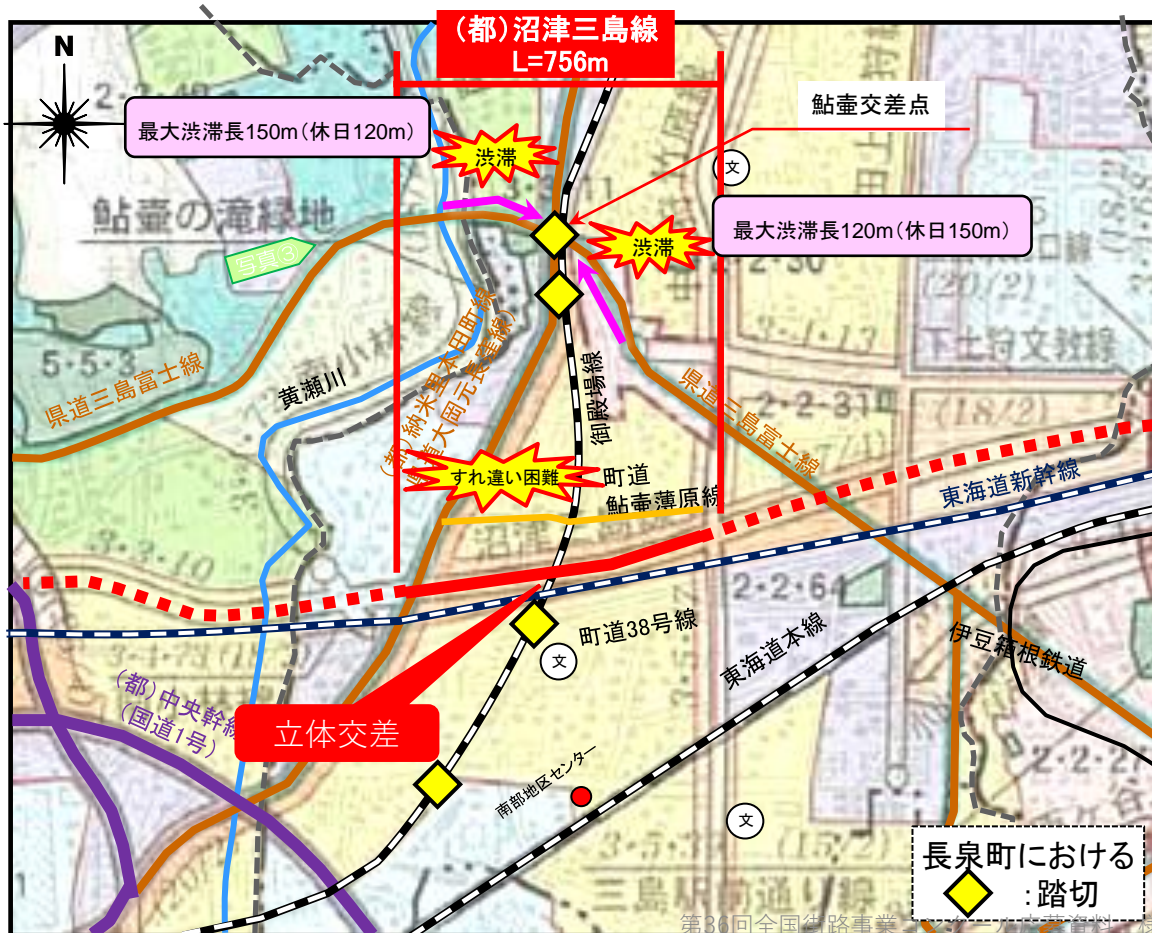
(静岡県：(都) 沼津三島線)

● 円滑な交通の確保 (JR御殿場線との立体交差)

● JR御殿場線により東西に地域が分断、東西方向の交通が県道三島富士線に集中し、鮎壺交差点において渋滞が発生していた。



JR御殿場線との**立体交差**により、この区間の踏切の待ち時間がなくなり、通行車両が分散されるなど、円滑な交通が確保された。



立体交差区間 完成写真



令和5年4月撮影

事業効果アピール資料

- 生活道路の安全性の向上
- 快適な自転車・歩行者空間の確保

・本路線に並行する町道等は、幅員が狭隘で歩道が無いため、車両のすれ違いが困難であるとともに、歩行者や自転車が事故の危険にさらされていた。



- ・バイパス道路を整備することで、通行車両が分散され、町道の車両交通は少なくなり、生活道路の安全性が向上した。
- ・**広幅員の自転車・歩行者道の整備**により、自転車・歩行者の安全性・利便性が向上した。



苦労や工夫等アピール資料

■ 地元住民との調整 (平成8年度～)

延長約760mもの大規模なバイパス整備は150人を超える権利者から貴重な土地を提供していただく必要があり、各調整が必要であった。

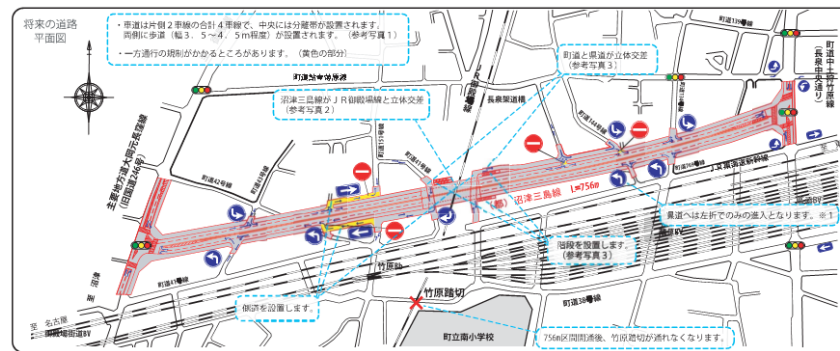
本整備に併せて「緊急対策踏切」として位置づけられている既設踏切（竹原踏切）を廃止するため、これまでと違った移動形態となることの説明が必要であった。

■ 住宅街での施工 (平成15年度～令和3年度)

当路線は、市街地内における住宅等が隣接した現場であり、併せて長期間に渡り鉄道の立体交差工事も行っていたことから、周辺住民に、作業時間、音や振動、工事用車両が通る道路など、できる限りの配慮をしながら工事を進めた。



地元説明会 平成23年2月撮影



完成後の移動形態を知らせる配布資料(抜粋)



施工状況 平成29年5月撮影

苦労や工夫等アピール資料

■ 古墳移設の調整 (平成15～17年度)

当路線の計画上に古墳時代の7世紀に造られた「原分古墳」があり、貴重な古墳であることから記録保存するだけでなく、地域の歴史資産として隣接地へ移築復元した。



古墳移設前



古墳移設後と工事着手前の全景

平成23年5月撮影

■ 鉄道事業者との協議 (平成22年度～JR東海委託工事)

当路線は、鉄道の下を通過する立体交差をする道路であり、鉄道を通常運行しながら工事の安全を確保するため、鉄道事業者との多くの協議が必要であった。



工事桁下の掘削

平成24年5月撮影



夜間工事

平成24年11月撮影



擁壁施工

平成31年4月撮影

受賞歴・報道資料

令和4年3月7日 静岡新聞

令和4年3月8日 日本経済新聞